

日自協 20-14  
令和 2 年 10 月 2 日

豊橋市長 佐原 光一 様  
豊橋総合動植物公園 公園長 様

一般社団法人 日本自閉症協会  
会長 市川 宏伸  
特定非営利活動法人  
愛知県自閉症協会・つぼみの会  
理事長 本山 信彦

## 要 望 書

### (音の過敏や人込みへの抵抗等により入園に困難がある人のための特別入園についての要望)

日頃より、市行政、とりわけ動植物公園としての新しい取り組みとなる『自殺予防月間キャンペーン』はじめ、障害のある人々や社会で疲れを感じた人たちにも配慮し、動植物公園の癒しの場としての機能を意識し運営くださっていること、お礼申し上げます。

今回要望しますのは、人込みや、音の過敏により、入園の機会が限られたり、混雑の中で不安を感じながら入園せざるを得ない方たちに、安心して動植物公園で過ごせるよう特別入園の機会を設けていただくことです。

音の過敏は、発達障害、自閉症の主な症状の一つです。苦手とする音は、人それぞれですが、拡声器の人工的な音や、モーターの音、赤ちゃんの泣き声などがあります。社会性の障害ともいわれることもあるように、大人数でのざわざわした雰囲気や、情報の多さにも苦手さがあります。しかしながら、これらの多くは、環境を整えていただくことで解消できるものでもあります。また、自閉症以外にも、同様に環境を整えていただくことで、以下の方々が動物園で過ごせるようになると想定されます。

- ・不登校の児童や生徒
- ・社交不安症状を有する人
- ・HSP (ハイリー・センシティブパーソン)

海外では、テーマパークにおいて、自閉症など過敏のある人向けに光や音の演出を抑えた日を設定していたり、スーパーマーケットなどで毎週決まった時間を光と音を穏やかにする配慮をしている事例があります。

残念ながら、国内では、刺激に弱い方達向けの取り組みは、ほぼ行われていないのが現状です。貴園に、合理的配慮の実践の先進的な取り組みをいただくことが、困難を抱える多くの方にとって、希望と励ましになるに違いありません。

聴覚過敏等のある人達への配慮・支援事項として、音響装置の使用を最小限にし、苦手な音の一つである赤ちゃんの泣き声への対処として未就学児のいない時間帯、未就学児の時間帯の住み分けなどの対応をいただきたく要望します。

ご検討いただきたくよろしくお願いたします。

連絡先・担当：特定非営利活動法人愛知県自閉症協会・つぼみの会 理事

一般社団法人日本自閉症協会 理事 花島紀秀 (電話 090-1563-2939)